



のびのび若っ子

こんな状況だからこそ

校長 中島 早苗

3か月ぶりに子ども達の姿がやっと学校に戻ってきました。6月1日にグリーンロードを歩く子ども達の姿を見て胸がいっぱいになりました。担任は教室で、担任をもたない職員は健康観察票の受付や昇降口で子ども達を迎えました。保護者の皆様には登校前の健康観察や登下校の付き添いなどをいただきました。特に午後のグループが登校する際には各ご家庭で様々な工夫をしていただいたと思います。保護者の方のサポートに心より感謝申し上げます。また、地域の皆様には、学校再開の決定からわずかの期間しかなかったにも関わらず、早速登下校の見守り活動を行っていただきました。ありがとうございました。

分散登校期間中、2年生以上からは「早く、クラスのみんなど会いたい。」という声が多く聞かれました。前半、後半のグループをつなぐ様々な工夫がされていることもあったのでしょう。一方、1年生は分散登校が学校生活のスタートとなり、担任の他にも専科教員が各学級のサポートに入りました。「園長先生」と何人もの子ども達から声をかけられ、改めて4月からの休校期間の長さには思いをはせたこともありました。

一斉登校になって数日は、登校時に子ども達の疲れが見られるようになりました。張り切っていた分、疲れもでたのでしょう。特に1年生は分散登校から2倍になった人数に圧倒されることもあったようです。また、感染拡大防止のため、教室では机は前向き、可能な限り離す、水道場の密を防ぐために時間をずらす、教材の共有は避け、共有教材を使った場合には消毒をする、ソーシャルディスタンスを守る等様々な教育活動の制限があります。人数が少なかった分散登校期間に比べ一斉登校になってからは、困難なことが多くなりました。「こんな状況では何もできない」と考えるのではなく、「こんな状況だからこそ、できることを」と考えて教員は知恵をしぼっています。例えば図工室は通常では4人で座る配置になっていますが、対面となってしまうことから教室での創作活動を考えていました。各自の筆洗い用の水を入れるために、教員が、じょうろで入れる準備もしましたが高学年の創作活動には場所も狭く、担当の先生が試行錯誤した結果、他教室から机を入れて、児童の距離をとった創作活動が可能になりました。

「校長先生、さようなら。楽しかったよ。エアタッチね。」これは分散登校期間中、「園長先生」と声をかけてくれた1年生が、先日の下校時に発した言葉です。とても嬉しく同時に子どもの可能性を実感した言葉でした。7月1日より、いよいよ給食が始まります。横浜市のガイドラインをもとに工夫をして実施していきます。引き続き、ご家庭での健康観察等よろしく願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』